

熊本大学国際化推進センターニュース

The News Letter of the Center for Globalization, Kumamoto University

熊本大学大連オフィス開所式を挙行

中国北部の活動拠点として、ネットワーク拡大を目指す

熊本大学は、その国際化ビジョンとして、グローバルなアカデミック・ハブ（拠点大学）を目指すことを掲げています。東アジアとの連携は、本学の特に重要な国際戦略の一つです。

10月には、熊本大学大連オフィスの開所をはじめ、中国との連携を深めるイベントが続きました。



オフィス看板を除幕する谷口学長(左)と
欧進萍・大連理工大学学長(右)

熊本大学大連オフィス開所式



オフィス内の古川副学長(左)、谷口学長(中央)、
喬森・大連理工大学准教授(右)

10月20日、熊本大学大連オフィスの開所式を行いました。

熊本大学から、谷口学長、古川副学長、山田文彦教授（大学院自然科学研究科）、大連理工大学から、欧進萍学長、宁桂玲副学長ほか、関係者約50名が参加しました。谷口学長と欧学長がオフィス看板の除幕を行うと、会場は盛大な拍手に包まれました。

谷口学長から「熊本大学の国際戦略にとって、中国は大変重要な地域です。大連オフィスを中国北部の活動拠点とし、将来の優秀な留学生確保、卒業生のネットワークづくりなどに力をいれていきたい。」と挨拶がありました。また、大連理工大学の欧学長から「大連オフィスの開所をきっかけに、幅広い分野において、大連理工大学と熊本大学の協力関係をさらに強化したい。」と挨拶がありました。

大連理工大学は1960年に中国国家重点大学に指定された中国東北地方における有力な国立大学の一つで、遼東半島の大連市に位置しています。熊本大学は、大連

理工大学との間に2006年に大学間交流協定を締結し、交流を深めてきました。

熊本大学大連オフィスは、大連理工大学のキャンパス内に設置されました。熊本大学の海外オフィスとしては、中国・上海、韓国、インドネシアに続く4番目となります。約80㎡の室内には、打ち合わせスペースのほか、熊本大学の刊行物、熊本及び日本に関する書籍・パンフレット類を置いています。

(熊本大学大連オフィス：郵便番号116024 中華人民共和国遼寧省大連市軟件園路80号 科技园B棟106号室)

山東大学110周年記念式典に参加

10月14日、15日、谷口学長が中国の山東大学創立110周年記念式典及びInternational Exchange フェアに参加しました。初日の14日に開催された



International Exchange フェア 谷口学長と Xu Xianming 学長では谷口学長が山東大学の学生等を前に本学における留学生関係事業について紹介し、さらに、山東大学の協定校からの参加者を前に熊本大学についてプレゼンテーションを行いました。また同14日には、医学部100周年記念式典も開催され、本学から竹屋生命科学研究部長が参加しました。翌日15日には、中国国内からの来賓や谷口学長を含む海外協定校からの来賓、さらに在校生及び卒業生らが見守る中、山東大学創立110周



竹屋生命科学研究部長(右から二人目)と
Yun Zhang 山東大学副校長兼医学
院院長(中央)

年記念式典が開催されました。

また、今回の訪問では、山東大学 Xu Xianming 学長との面談も行い、両大学のこれまでの交流実績や今後の方向性について意見交換を行い、さらに友好関係を強めていくことに合意しました。

3大学工学ワークショップ (山東+亜洲+熊本)に参加

10月14日、中国・山東大学において3大学工学ワークショップが開催されました。このワークショップは、山東大学、韓国・亜洲大学校及び本学の3大学により毎年開催されて来たもので、今回で4回目の開催となりました。

会場を材料科学など4つの分野に分け、本学からは、里中工学部長をはじめ工学部教員12名のほか、学生7名がそれぞれの研究を発表しました。学生の参加は今回が初の試みでしたが、そのプレゼンテーションは堂々としたものでした。

また、ワークショップ開幕に先だって三大学間の覚書の調印も行われ、今後の益々の交流・研究の発展に期待が持てます。

第34回火の国まつりに本学留学生が参加

8月6日、第34回火の国まつりに本学の留学生が参加しました。この企画は高等教育コンソーシアム熊本の呼びかけにより実現したもので、中国、韓国、ベトナム、インドネシア等から本学に留学中の学生約40名が、「コンソー熊本・留学生連」としておてもやん総おどりに参加しました。

本番に先立ち留学生らは練習を重ね、当日は、おそろいの赤いハッピーを着て、他の踊り連に引けを取らない立派な踊りを披露しました。

応援に駆けつけた谷口学長をはじめとする本学教職員の暖かい声援を受け、留学生らは熊本の夏の伝統行事を楽しんでいました。



谷口学長（中央）と参加した留学生

日韓共同理工系学部留学生事業推進フェア

8月28日に日韓共同理工系学部留学生事業推進フェアが韓国ソウル市の国立国際教育院で、開催されました。

このフェアは、韓国内の筆記試験に合格した150名の選抜学生及び保護者に対し、日本側大学の情報を提供する場であり、日本側の大学37校の参加のもと盛大に開催されました。

今年度は熊本大学が当番校となり、午前国立国際教育院、文部科学省、熊本大学国際交流担当副学長の挨拶の後、プログラムに関する説明が行われ、谷口学長による特別講演が行われました。

また、3月の震災後の日本での生活等について、東北大学及び筑波大学に在籍中の当プログラム学生によるスピーチもあり、これから日本留学を希望している学生及び保護者の日本での生活に対する不安を和らげることができました。

谷口学長は午後のブース説明会にも参加し、熊本大学のブースは訪問者が絶えませんでした。



熊本大学ブースの様子

日本語学校内進学相談会に参加

国際化推進センターは、国内の日本語学校等で開催される進学説明会に参加し、本学へ入学(留学)を希望する学生に情報提供や個別相談を行っています。

9月9日には大阪日本語教育センター、9月30日には岡山外語学院で開催された進学相談会に参加し、ブースを訪れた学生に、日本留学試験、本学の学部入試及び大学院進学などについて説明を行いました。

10月20日には東京外国語大学、11月4日には大阪大学において、国費(学部進学)留学生への進学説明を行います。



学生の質問に丁寧に答える本学教員

日本留学フェア(ソウル)に参加

9月17日に韓国・ソウルで開催された日本学生支援機構(JASSO)主催の平成23年度日本留学フェア(韓国)に、留学生の受入増加を目的として、国際化推進センター兼務教員と国際戦略ユニット職員が参加しました。

本学ブースには約50名の来訪者があり、学部や大学院、熊本の生活などについて質問がありました。

また、東日本大震災後、日本への留学に不安を感じている韓国の学生に対し、本学大学院在籍者からのメッセージ動画を会場内で上映しました。

2010年度の本学サマープログラム参加者で今後、本学への進学を希望しているという学生もブースを来訪するなど、韓国からの留学生増加に向けて手応えが感じられました。



熊本大学ブースを訪れる韓国大学生

日本語研修コース終了式/短期留学コース(後期)・日本語日本文化研修プログラム閉講式

8月5日、日本語研修コース終了式及び短期留学コース(後期)・日本語日本文化研修プログラム閉講式が行われました。

日本語研修コースの4名は、学長からそれぞれ修了証書を受け取り、短期留学コース45名と日本語日本文化研修プログラム生の2名は在籍証明書、修了レポート集を受け取りました。日本語研修コース生は10月から自然科学研究科に進学します。

また式終了後は、新しくオープンした交流室で1年間ご指導頂いた指導教員と懇談し、修了証書を持って先生や友達と写真を撮り最後の時間を楽しみました。



日本語研修コース修了生と谷口学長

10月受入留学生のガイダンス等について

国際化推進センターでは10月から本学に入学する外国人留学生に対し、以下のガイダンス等を実施し、留学生の学校内外でのサポートを行っています。

- ・国際交流会館入居オリエンテーション(9/27～10/4:4回)
- ・履修ガイダンス(9/28)
- ・生活支援オリエンテーション:黒髪地区(9/29)
- ・日本語履修相談会(9/30)
- ・専門科目履修相談会(9/30)
- ・生活支援オリエンテーション:本荘・九品寺地区(10/5)
- ・自転車貸し出し(10/7抽選)



生活支援オリエンテーション



履修ガイダンス

平成23年度「教育の国際化推進のための海外FD研修」

9月12日から23日まで、アメリカのカリフォルニア州立大学フラトン校において、英語による教授力・コミュニケーション力の向上を目的とする海外FD研修を実施しました。

本研修は平成22年度より実施しており、第3回目となる今回は大学院自然科学研究科の教員5名が参加しました。

参加者は英語による教授法の講義やワークショップ、授業見学等のプログラムを通し、様々な内容を学びました。研修の最後には各人が15分間ほどの模擬授業を行い、研修で得た成果を現地の学生や講師に披露しました。

帰国後、参加者からは「大変有意義な研修だった」という感想が寄せられました。

今後は、本研修参加者が中核となって国際教育プログラムの充実に向けた活動を推進し、学部・大学院等の教育面において国際的な大学づくりが進むことが期待されます。



カリフォルニア州立大学フラトン校にて研修に参加する本学教員

アルバータ大学(カナダ)来学

7月6日、本学の大学間交流協定校であるアルバータ大学(カナダ)より Katy Campbell学外教育学部長ほか2名が谷口学長を表敬訪問し、両大学の今後の交流発展について意見交換を行いました。

本学とアルバータ大学は、1994年に協定を締結して以来、約17年間にわたり交流を続けてきており、昨年9月には本学教員4名をアルバータ大学へ派遣し海外FD研修を実施しました。

今回、訪問団は研修参加者とも面会し、研修内容の感想等について意見を交わしました。

また、五高記念館では伊藤館長の説明に熱心に耳を傾けながら館内見学を行いました。

両大学の今後の更なる交流が期待されます。



Katy Campbell 学外教育学部長(左から2人目)と谷口学長

平成23年度 職群固有スキル育成研修 (国際関連業務スキル向上) スタート

本学事務職員が、留学生、外国人研究者等と英語により円滑にコミュニケーションを行えるスキル習得を目的とする研修「平成23年度職群固有スキル育成研修(国際関連業務スキル向上)」が9月からスタートしました。平成24年2月まで月2回計10回、初級と中級に分け実施します。

初級クラスでは英語の基礎的な会話力の習得に重点を置き、自己紹介や道案内などの初歩的な英会話、e-mailの書き方及び電話応対等について、また中級クラスでは総合的な英語の運用能力を高めるとともに、より円滑なコミュニケーションを行うための英会話力習得を目指します。

研修初日の様子は、開始当初は緊張気味だった受講生も徐々に英語に慣れていき、授業の後半では、意欲的に質問や発表を行っていました。半年間にわたる本研修の成果が大いに期待されます。



講師の説明を熱心に聞く参加者

国際化推進センター交流室について

国際化推進センター交流室は全学共用棟A棟2階にあり、平成23年4月の改装完了から半年あまりがたちました。

南に面した交流室は、明るい光が差し込み、留学生や日本人学生が楽しそうに談笑する声が聞こえてきます。

交流室には各種冊子のほか、留学生向け情報、留学を考えている日本人学生向けの情報、国際戦略ユニットからのお知らせ、留学生支援団体・ボランティア団体からのお知らせが掲示されており、留学や国際交流に関する情報を集めるのにも最適な場所です。

利用可能時間は、平日8時15分～17時です。



大きなガラス窓を持ち、明るい雰囲気交流室

大学間・部局間交流協定(平成23年7月～9月)締結分

大学間/部局間		大学名	国名	学術/学生
大学間		ラオス国立大学 National University of Laos	ラオス人民共和国	学術/学生
		深圳大学 Shenzhen University	中華人民共和国	学術/学生
		バンドン工科大学 Institut Teknologi Bandung	インドネシア共和国	学術/学生
部局間	工学部 大学院自然科学研究科	韓国海洋大学校工科大学 Korean Maritime University, College of Engineering	大韓民国	学術/学生

韓国海洋大学校工科大学と部局間交流協定を締結

9月16日、韓国釜山市にある韓国海洋大学校工科大学(学部に対応)より工科大学長 Choi Il-Dong 教授および Kim Yun-Hae 教授が本学を表敬訪問し、今後の学術交流・学生交流等についての意見交換を行いました。

その後、調印式をとりおこない、本学工学部および大学院自然科学研究科との間に部局間交流協定が締結されました。

これまで両校間においては、国際会議の共同開催、韓国海洋大学校から教員・学生の訪問団が本学工学部を数回にわたって訪れるなど、積極的な交流が行われてきました。今回の協定締結により、今後のさらなる交流の発展が期待されます。



工科大学長 Choi Il-Dong 教授(中央)



表敬訪問の様子

モンタナ大学(アメリカ)滞在記



モンタナ大学キャンパス(メインホール前)

平成22年7月から約1年間、熊本大学の交流協定校であるアメリカ・モンタナ大学に交換教員として滞在しました。

モンタナ州と熊本県は姉妹関係であり、学校関係を含め様々な分野で交流が盛んに行われています。私は滞在中、主にモンタナ大学の教職員および学生との国際交流、物理宇宙科学部での教育研修等をしていました。

モンタナ大学の所在地であるモンタナ州のミズーラはロッキー山脈の裾野に位置する人口約7万人の大学町です。ミズーラの近くには、グレーシャー国立公園とイエローストーン国立公園の二大観光名所があります。アメリカでも最も美しい地域にあるモンタナ大学は、広大な土地、色とりどりの



大学院自然科学研究科
助教 周山大慶

美しい四季をもつ豊かな自然に恵まれる総合大学です。大学のすぐ裏側に山があります。山の頂上の手前のところに大きな白い“M”のマークがあり、周辺からどこでも一望できますので、町のシンボルにもなっています。大学のキャンパスと家の庭に広がっている草を求めて野生の鹿が山から降りて来ます。こんな身近なところで野生の鹿が見えてすごく驚きました。町のあちこちでリスが木を登ったり、降りたり元気に走っている可愛い姿がよく見かけられ、自然にとっても近い環境です。

大学の入学・卒業式、大学祭、アメリカンフットボールの試合と音楽会等が開かれるとき、大勢の地元住民も参加し、お祭りのようにキャンパスがいつも賑やかです。大学内で研究公開ゼミおよび講演がたくさん行われ、大勢の参加者が来て、学問をはじめ経済、医療、環境等関心の高い課題について真剣に議論し、意見交換がなされています。このようにモンタナ大学は地元住民と日頃からさまざまな活動を通じて緊密に結ばれ、町と一体となっています。

モンタナ大学の授業の中で教員と学生の双方の間で活発に意見が交換され、自由に授業が進められています。大学の授業と学外の活動等を通して、モンタナの大学生は一方的に指導を受けるのではなく、ちゃんと自分の意見を持ち、積極的に行動し、非常に元気があって自立していることが感じられます。

モンタナ州の土地が広いので、生活には車が必要品です。街を走る車の中で、特に日本車が人気です。寒い山岳地帯に見合う四輪駆動のスパルのハッチバック、ホンダのCR-V、アメリカの大型SUVとトラックがよく見かけられます。日本のような車検制度がないため、車の窓ガラスが割れたり、あちこちが壊れたり、大きい音が出る車もよく走っています。こちらの人は車が動けばいいという考えで、日本の常識ではちょっと考えにくいです。

大学のキャンパスと街によく散歩に出かけます。そのとき、通りかかる地元の方によく笑顔で挨拶されます。買い物するときにも、店のスタッフに天気の話等気さくに声を掛けられ、最後に“良い一日を。”“良い週末を。”といった優しい言葉が送られます。ミズーラはもともと西部開拓者の町、お互いに協力し合わなければ、開拓するどころか生きていくことさえ出来なかったのです。だから、大都会と違って、モンタナの皆さんは人との付き合いをとても大切にします。日常生活の中にも積極的にコミュニケーションを取るように心がけ、見知らぬ人をよそ者扱いしたりしないです。小さな大学町ですが、非常に平和で、外国人にもすごくフレンドリーです。日本に帰国後の今も、モンタナ大学そしてミズーラの町を懐かしく思い、いつかまた訪問したいです。



競技場での卒業式



大学のパレード